

# ガス溶接技能講習練習問題

※下記問題は練習問題であり、学科試験と同一ではありません。

また、当センターの学科試験においても、下記のようにふりがなを振っております。

- 1、ガス溶接に使用する酸素は強化プラスチック製の容器に充てんされている。
- 2、酸素容器には継ぎ目のない容器が用いられている。
- 3、溶解アセチレン、LPガス等の容器ならびに液化酸素の容器は立てて置いてはいけない。
- 4、圧力調整器には、防錆のため各部にグリースを塗っておいたほうがよい。
- 5、火口の清掃には鋼線を用いておこなうこと。
- 6、溶接作業を行う場合は、可燃物の除去ももちろんであるが、消火器を準備しておく必要はない。
- 7、アセチレンの供給量が不足し、酸素圧力が少なすぎると、逆火を起こしやすいので、圧力計で圧力を確認すること。
- 8、空気中の酸素濃度が18%が安全の限界で、12%で死の危険にさらされる。
- 9、ガス溶接等の作業に用いる可燃性ガスとしては、通常溶解アセチレンが使用されており、メタン・エタン・エチレンやLPガスも使用されている。
- 10、空気に着火すると熱と光を出して燃焼するガスを可燃性ガスという。
- 11、空気は支燃性ガスであるが酸素は可燃性ガスである。
- 12、外部から着火源を与えないでも燃焼・爆発する最低の温度を発火点という。
- 13、可燃性ガスが燃焼するためには、①可燃性ガス②支燃性ガス③着火源の3つのうち3つとも存在しなければならない。
- 14、分解爆発は、酸素や空気などの支燃性ガスがなければ起きることはない。

15、吹管やホースなどのガス漏れチェックは、石けん水膜を用いると危険である。

16、エチレン、プロパン、プロピレン、メタンは炭素を含むため、換気の悪いところで作業をすると一酸化炭素中毒をおこす危険性がある。

17、酸素濃度が16%の場所では作業を行ってはならない。

18、ガス溶接作業主任者を選任した時は、その者の氏名を朝礼で発表し労働者に周知するだけでなく掲示もしなければならない。

19、安全装置をやむを得ず取り外す必要がある場合は、あらかじめ事業者の許可を受けなければならない。

20、ガス集合装置は、火気を使用する設備から5m以上離れていなければならない。

- 1、×      2、○      3、×      4、×      5、×      6、×      7、×      8、○  
9、○      10、○      11、×      12、○      13、○      14、×      15、×      16、○  
17、○      18、○      19、○      20、○